

平成28年度 自己評価計画書 (9月 中間評価)

石川県立金沢商業高等学校

No. 1

重点目標	具体的取組	主担当	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備考	評価・集計結果	前期の成果と後期への課題
1 生徒の学習意欲を高める授業を実践し、確かな学力と筋道を立てて書く力を育成する。	① 生徒に興味・関心を持って授業に取り組み、学力向上を図る。	教務課 全職員	授業がわかりやすいと感じる生徒の割合が、 A 90%以上である B 80%以上である C 70%以上である D 70%未満である	評価がC、Dの場合、授業方法及び内容を検討する。	前期、後期に全生徒にアンケート調査	評価：B 前期生徒による学校評価アンケート結果 全体 89% 1年 90% 2年 90% 3年 86%	前年度の同じアンケート結果の82%と比較して高い集計結果を示している。3学年の新しい商業科目も2年目となり、落ち着いた授業ができてきている成果が見てとれる。
	② 各種検定試験を通して学習意欲を高める。	教務課 商業科	3年生の1級3種目の取得者が、 A 165人以上である B 160人以上である C 155人以上である D 155人未満である	評価がC、Dの場合、指導方法及び内容を検討する。	2月に担当課で集計		生徒の学校評価アンケートによると、意欲的に資格取得・検定試験に取り組んでいると肯定的に回答した割合が96%である。2年次に1級が取得できなかった生徒に対しては、進路決定後も意欲的に取り組むよう指導が必要である。
	③ ICTを有効に活用した授業を研究し、実践する。	教務課	ICTを有効に活用した授業を実践した教員の割合が、 A 70%以上である B 60%以上である C 50%以上である D 50%未満である	評価がC、Dの場合、改善策を検討する。	前期に中間集計、後期に最終集計	評価：C 前期教職員による学校評価アンケート結果 56%	教科による差もあるが、授業においてICTを用いた方が効果的である場面も多いので、今後、使用例を例示するなどして利用の啓発をしていく。
	④ 授業やLHの中で文章を書かせる場面をより多く設け、「筋道を立てて書く力」を育成する。	各学年 教務課 各教科	「筋道を立てて書く力が向上した」と感じる生徒の割合が A 80%以上である B 70%以上である C 60%以上である D 60%未満である	評価がC、Dの場合、方法及び内容を検討する。	前期、後期に全生徒にアンケート調査	評価：D 前期生徒による学校評価アンケート結果 全体 59% 1年 54% 2年 58% 3年 64%	前年度のデータを下回っており、特に1・2年生が低い値となっている。3年生は履歴書指導や小論文指導があるため、今後伸びると予想される。1・2年生については新しく導入した生徒手帳を活用するなど、書く力を向上させたい。

平成28年度 自己評価計画書 (9月 中間評価)

石川県立金沢商業高等学校

No.2

重点目標	具体的取組	主担当	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備考	評価・集計結果	前期の成果と後期への課題
2 ビジネスマナー教育、実践教育、国際理解教育、おもてなし教育の更なる充実に取り組む。	① 相手の顔と目を見たさわやかな挨拶を日常的に実践し、社会に貢献できる生徒の育成に取り組む。	生徒指導課 特活課	年間を通して相手の顔と目を見たさわやかな挨拶ができた生徒の割合が、 A 95%以上である B 85%以上である C 75%以上である D 75%未満である	評価がC・Dの場合、指導方法を検討	前期、後期に全生徒にアンケート調査	評価：B 前期生徒による学校評価アンケート結果 全体 91% 1年 90% 2年 91% 3年 90%	昨年の肯定的回答は91%であり、今年度も同じ数字であった。さわやかな挨拶は対人関係において大事であるので、9月に、3年生を皮切りとして朝の登校時にホーム単位での挨拶運動に取り組む予定である。
	② 生徒指導が主となり、公安委員・生徒会執行部と協力しながら遅刻0の徹底を推進していく。	生徒指導課	遅刻0の日が年間を通じて、 A 100日以上である B 80日以上である C 60日以上である D 60日未満である	評価がC・Dの場合、指導方法を検討	年間を通じて調査		7月までの遅刻0の日は50日である。昨年同期には46日であるので、取り組みの成果が出ていると考えられる。朝の登校指導を継続していきたい。
	③ 実践教育とマナー教育の一環である金商デパートの運営に積極的に取り組む。	特活課	金商デパートにおいて、学校で学んだことを生かした生徒の割合が、 A 95%以上である B 90%以上である C 85%以上である D 85%未満である	評価がC・Dの場合、運営方法を検討	金商デパート終了時に、全生徒にアンケート調査		前期のアンケートでは、まだ準備段階の活動について、88%が肯定的な評価をしている。11月の金商デパート終了時に全生徒を対象にアンケート調査を実施する予定である。
	④ 英会話力育成の充実に取り組む。	英語科	1・2年生で全商の英検2級を取得した人数が、 A 120名以上である B 100名以上である C 80名以上である D 80名未満である	評価がC、Dの場合、英語が必要であることを認識させるために講話等の内容や機会を検討する。	全商の英検2級の合格者を調査		7月実用英語検定の合格者は、準2級15名、2級2名である。直近の全商英検の試験日は9月であるので、万全の体制で臨ませたい。

重点目標	具体的取組	主担当	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備考	評価・集計結果	前期の成果と後期への課題
3 生徒の希望する進路実現に向けて、各学年に応じた計画的なキャリア教育に取り組む。	① 企業ならびに同窓生と連携を深め、各種ガイダンス機能の充実と希望企業への実践的な面接指導を実施して、進路実現を図る。	進路指導課	ガイダンスや面接指導を通じて、希望の職種・業種への進路実現を達成できたという生徒が、 A 95%以上である B 90%以上である C 85%以上である D 85%未満である	C・Dの場合、取り組みを検討	後期に就職希望の3年生対象にアンケートを調査	/	進路実現に向けて同窓生による講演会を2回実施。さらに業者による面接・履歴書指導等3年学年と連絡を密にしガイダンスの充実を行った。求人件数も昨年を上回り、一人でも多くの生徒が希望する職種に就けるように、事前事後指導を今後とも各課主任・学年主任と連絡を密にして指導強化していきたい。
	② 補習やガイダンスの指導・働きかけを工夫、志望分野・志望校への進学意識を高める。	進路指導課	しっかりとした目的意識と学習意欲を持って受験勉強に取り組み、学力向上に努めたと答えた生徒が、 A 90%以上である B 80%以上である C 70%以上である D 70%未満である	C・Dの場合、取り組みを検討	後期に進学希望の3年生および1・2年生対象にアンケートを調査		1・2年生についてコンパス金商を使つてのガイダンスを行った。また2年生については分野別ガイダンスを実施し、進路目標を持たせるよう指導した。3年生については複数回の内部及び外部講師によるガイダンスを行い、進路目標の明確化を図りつつ、成績向上のため学習意欲喚起の指導も行った。ただ、目標のあいまいな生徒の存在もあり、個別指導の大切さを痛感している。
	③ 1・2年次より、計画的にキャリア教育を行ない、進路実現に向けた取り組みを充実させる。	進路指導課 各学年	希望する進路の実現に向けて、具体的な進路希望が設定できたと答えた生徒が、 A 90%以上である B 80%以上である C 70%以上である D 70%未満である	C・Dの場合、取り組みを検討	後期に2年生対象にアンケートを調査		1年生については今年度大学見学会・企業見学会を初めて実施しすることができた。2年生のガイダンスはしっかり行うことができた。各学年主任と連絡を密に取り、生徒の意識が高まるようなガイダンスを今後も続けていきたい。

重点目標	具体的取組	主担当	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備考	評価・集計結果	前期の成果と後期への課題
4 心身の健康と豊かな人間性の育成に向けて、部活動、特別活動等の更なる充実に取り組む。	① 運動部の県大会において、優勝を目指す。	特活課	県大会でベスト4以上の運動部が、 A 9部以上である B 8部である C 7部である D 7部未満である	評価がC・Dの場合、指導を検討	大会報告書による調査		7部(野球部、男女バレーボール部、ソフトテニス部、バドミントン部、少林寺拳法部、新体操部)がベスト4以上の成績をあげている。他の部活動についてもベスト4まであと少しというところまできており、後期に期待したい。
	② 文化部・商業部の県大会(総文・新人)において団体優勝をのべ3競技以上を目指す。	商業科 特活課	県大会(総文および新人)で団体優勝をする競技が、 A のべ6競技以上である B のべ4競技以上である C のべ3競技である D のべ2競技以下である	評価がC・Dの場合、指導を検討	大会報告書による調査		県総文において珠算部、情報処理部、ワープロ部が団体優勝している。(前期が終了した段階で3競技が団体優勝) 新人大会では全種目で団体優勝できるよう期待したい。
	③ 各種委員会・生徒会活動及びボランティア活動等の充実、活性化を目指す。	特活課	各種委員会・生徒会活動及びボランティア活動に自主的に取り組んだ生徒の割合が、 A 80%以上である B 70%以上である C 60%以上である D 60%未満である	評価がC・Dの場合、活動内容や取り組み方を検討	後期に全生徒を対象にアンケート調査		後期に全生徒を対象にアンケート調査を実施する。
	④ 校舎内の清掃をきちんと行い、節電・節水に努め、ゴミの分別をしっかりと行い、意識を全生徒がもち、自主的に行動することを目指す。	保健課	清掃をきちんと行い、節電・節水に努め、ゴミの分別をしっかりと行い、意識を全生徒がもち、自主的に行動することを目指す。 A 80%以上である B 70%以上である C 60%以上である D 60%未満である	評価がC・Dの場合、指導を検討	前期、後期に全生徒にアンケート調査	評価：A 前期生徒による学校評価アンケート結果 全体 94% 1年 96% 2年 96% 3年 91%	前期学校評価アンケートからは、生徒は90%をこえる結果が出ているが、教職員のアンケートでは80%代とずれがある。後期はこのずれが無くなるよう更なる呼びかけを行い、清掃、節電・節水ゴミの分別の徹底を図りたい。